



巻頭のことば

所長 成瀬 政男

中央職業訓練所は、世のなかの要請にこたえて、技能とその指導訓練に時代を画ぞがどして、いま、ここにその一步を踏みだした。

天然資源、特に工業原材料に乏しい、しかも狭い国土のうちに、多くの労働力を抱えているわが国が、これからさき平和愛好の国として自他ともに榮えていくためには、他国ではできないけれども真にその国が欲しがっているもの、しかもそれを入手することによってその国が繁榮する類のものを、このわが国で生産し、これを欲する国に提供することのできる国となることである。そのためには、わが国が自己の持っている唯一の宝、すなわち、多い労働力を十分に活用することである。ここに要求される労働力は単なるその数ではなく、技能という磨きのかかった質のよい労働力である。これまでのような手先の器用さ、反復練習だけによる熟練、あるいはまた経験による勘などに基づく技能だけでは、現代の進歩向上していく機械文明の速度に追いついていくことはできない。科学技術に裏づけられた技能がこの機械文明を支え、導いていくものである。

また、このような科学技術に裏づけられた技能を体得した技能者によって、はじめてここに、他国ではできない、また他国の欲しいそして他国の繁榮に貢献することのできるものをわが国で提供することができるのである。このことが、また、わが国へ繁榮をもたらす基となることはいうまでもない。

そうすると、問題はかかって、これらの技能者をいかにして養成するかその方法を調査研究し、また実際に養成する機関の存在が、わが国の繁榮と世界の繁榮とをもたらすものとなってくる。ここにわれわれの中央職業訓練所が設立された意味がある。

中央職業訓練所は、わが国に他に類例のない唯一の施設として発足し、上述の目標に向っていまその実現を計るべく、職員、訓練生協力一致その最善を尽しているのである。

中央職業所報の第一号として、当施設設立計画準備時代から創設時代の記録に主力をおいた。これを以ってわれわれは、歴史の一節を書き留めて、後の人々の参考にしたいと意図したのである。

所報創刊号の巻頭言にかえて以上を述べる。